

引野中学校だより 学力特別号

思いやりの心をもつ、自立した生徒の育成
～素直な心・笑顔のあいさつ・感謝の心～

平成30年10月17日
北九州市立引野中学校
校長 諸藤 貴子

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

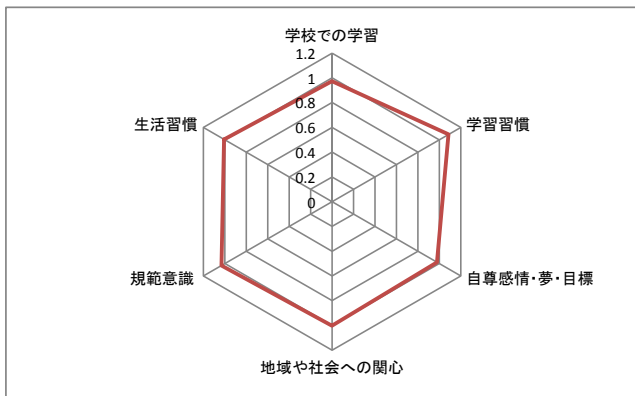
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

学力の定義や捉え方は様々であり、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査の結果も大切に、今後も効果的な指導や学力・体力の向上につながる教育活動が実践できるよう努めてまいります。ご家庭でも、学校と連携して、お子様の学習をご支援頂けましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・話すこと・聞くことの領域が特にすぐれている。 ・日常的に、自分の考えを書く習慣をさらに身につけさせる。	上回っている
国語B	・書くこと、読むことの領域が特に優れている。 ・話し合い活動の進め方をさらに明確にし、充実させる。	上回っている
数学A	・関数の領域や資料の活用の領域が特に優れている。 ・図形の領域の一部の問題で、正答率が全国平均にわずかながら届いていないため、図形に関する技能、知識・理解を一層向上させる。	上回っている
数学B	・数学Aとは逆に、図形の領域が特に優れている。 ・主体的・協働的活動をとおして、他者と考えを比較したり、自分の考えを見つめ直したりすることにより、数学的な事象に関して説明したり、間違いを正したりすることができている。	上回っている
理科	・物理的領域が特に優れている。 ・すべての学習領域において、全国平均を上回っているが、評価の観点における観察、実験の技能については、今後、さらに充実を図る必要がある。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・授業において、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるかの質問や、生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているかの質問について、全国平均をやや下回っていたが、1学期末に学校独自で調査したアンケート結果では、改善が見られている。 ・学校から出される宿題を中心として、自主的に計画を立てて家庭学習を行っている生徒が多い。 ・挨拶を進んで行ったり、学校のルールを守り、生活規律の意識が高い生徒が多い。 ・将来の夢や目標に対する意識や、地域・社会への関心を高めるための工夫が必要である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・生徒が主体的・協働的に、考えを深め、広げ、課題解決できる授業の工夫改善を行う。
- ・学校からの宿題を適度に提供し、家庭学習の充実、課題提出の徹底を図り、生徒が内容の理解について意識できるようにする。
- ・学力定着サポートシステム等において、生徒の基礎基本の定着を図るとともに、結果を分析・検証し、弱点の克服に努め

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・日々のきめ細かな指導により、基本的な生活習慣や家庭学習の大切さ、取組の意義について理解させる。
- ・各学年の発達段階に応じた、キャリア教育の視点に立った体験学習を取り入れる。自分の適性を見極めるとともに、夢や目標を実現するための様々な選択について考え、自己実現に向けた実質的、系統的な学習を行う。
- ・各教科等で学んだことが、将来に生かされる指導を学校と家庭が協力して行うことで、自立にむかう心をはぐくみ、実践力をつける。